

支え合えば、この街はもっとよくなる

くわな社協だより

No.108 / 2024年6月号

特集

「顔が見える」「信頼される」
「必要とされる」社協を目指して

みんなでさつまいも育てよう！
5月8日(水)らいむの丘で、養護老人ホームの入所者と保育園の子どもたち・生活介護の利用者・ボランティアが一緒にサツマイモの苗を植えました。
秋の収穫祭が今から待ち遠しい！



発行

社会福祉法人 桑名市社会福祉協議会

〒511-0062 桑名市常盤町51番地(桑名市総合福祉会館内)

☎0594-22-8311(代表) ☎0594-22-8218(地域福祉課)

FAX 0594-23-5079 ✉soumu@kuwana-shakyo.com



URL

www.kuwana-shakyo.com

ホームページに詳しい情報掲載中!!

桑名社協

検索

「くわな社協だより」は、共同募金を活用して制作しています



しゃきょうちゃん

特集

「顔が見える」「信頼される」 「必要とされる」社協を目指して

語り手 | 桑名市社会福祉協議会 事務局長 松田秀之さん

1995年入職。長島支所長、地域福祉課長等を経て現職2年目。

【R6行動目標】地域の方々、利用者（家族）の方々へ寄り添い、気配り・目配り・心配りを常に意識すること。仕事に厳しさを求め、和を貴び礼節を正し、誠実・謙虚であること。失敗を恐れずチャレンジ精神を忘れないこと。



らいむの丘が目指す 地域共生社会の形とは

令和4年4月にオープンした多世代共生施設らいむの丘は今年で3年目。慣れない中で地域に少しずつ馴染んでいくながら、「人と人とがつながる・人と地域がつながる・働く職員同士がつながる」ということをテーマのひとつとして取り組んできました。3年目の今年はその成熟させていくことが目標です。

地域共生社会の実現は全国の社協が目指すべきところですが、桑名市社協の場合はそれを具体的な形（＝らいむの丘）として体現したということが大きいですね。ただ、これで地域共生社会の実現が完了するわけではありません。ここを拠点にしながら、施設のない地域でも地域共生社会を実現していくこと・桑名全体で一体となってそれに取り組んでいくことを目指しています。その点では、これからの目標はそれらをどう「見える化」できるか、というのがあります。

共生施設でよくあるのは高齢者向けですが、ここには障がいのある方や母子家庭の方も利用していますし、中には様々な理由により日常生活に課題のある方もいます。このような方々は普段からあまり地域との交流がないんです。多様な皆さんが共存して生活するというのに、当初は正直不安を感じることもありました。



しかし、実際にこうして形ができ進めると、これも一つの形だと思えるようになりました。これが実現していくことで本当の地域共生社会ができるという実感もあり、その第一歩が歩めたとも思っています。今後はここを利用している方だけでなく、地域の方ともつながりあい関わりあっていく、それを通じて発信の場にもなっていけるのではと感じています。場所があることが多くの受け皿になっているという側面もありますが、そこにあり続けることでそれが見える化にも繋がる。これがらいむの丘の大きなメリットでもあると思います。

誰しもが当事者である

地域共生社会の中で、現在「重層的支援体制整備事業」が実施されています。様々な専門職の方がそれぞれの垣根を越えて、まさしく重なりあうことで地域課題や困っている方々を手助けしていくという事業です。引きこもりを例に出すと、子どもの場合は不登校と言われますが、社会人になって引きこもってしまうこともありますし、定年になったことで社会との関わりがなくなり引きこもることもあります。更にこれは本人だけの問題ではなく、親や子どももそのことが原因で引きこもってしまうなど、様々なケースがあるんです。どんな人でも何かきっかけでそうになってしまうかもしれない。本人が弱いとか何かが欠けているとかではなく、誰もがそうなる可能性があるんです。様々な課題に対して、自分たちがいかに本人や周囲に寄り添っていけるのか。言葉だけでなく体を寄せていくことができるのか。

勇気を持って自分も何か頑張ってみようと思える、そんな取組を活発にしていきたいですし、取組を見える化することで活動への理解につながれば、更なる支援にもつながっていくと考えています。

その点では、福祉に触れてもらうだけでも、その様子が見えるだけでも全然違うと思うんです。

らいむの丘にあるヴィレッジセンターの2階は会議室として貸し部屋になっています。普段は利用するのに利用料がかかりますが、夏休みや冬休みに貸し部屋の利用がない場合は子どもたちに学習室として無料で開放しています。

実はこれは先の長い種まきでもあって、地域の子どもたちが福祉に携われる機会（＝チャンス）でもあるんです。成長していく中で「子どもの頃に行ってたなー」と思い出してもらったり、福祉の現場で働く人たちと触れ合うことで「自分も将来こういうところで働いてみたいな」と思ってもらえたら。何十人と利用する子どもたちの中からほんの数人でもいいんです。福祉の将来的な人材獲得にもつながればと思っています。



学ぶ・気づく・振り返る

学ぶことや気づくことって、意識していないとそのことを忘れてしまうこともある。もっと貪欲に学んでほしいし気づいてほしいんです。

学び方や気づき方って「先生から子どもが学ぶ」みたいな一方向だけではないし、その逆があってももちろんいい。大人が子どもから学ぶことだって沢山あるし、大人が必ず正しいことを教えられるかといったらそうじゃないこともある。年齢や立場は関係なく、誰もがもっと広く学ぶべきだと思うんです。

現代社会は、インターネットが普及し、検索すれば誰もが簡単にどんなことでも調べることができますが、仕事上で取って後輩たちに質問・相談するように心掛けています。そうすることで、その職員の仕事に向き合う姿勢が伝わり、一つのコミュニケーションにもつながります。

地域に目を向けると、コロナ禍に伴い地域のつながり



の希薄化が高まっていますが、組織内同様に「情報共有」を意識した上での「連携」「声掛け」を念頭に据え、再構築に取り組む必要があります。また、5年後の自分の将来像を描いて、仕事を通じて自己研鑽に励んでいただきたいです。「個人の目標」「チームの目標」を持ち、職員それぞれが協力し合い、助け合い、支え合う姿勢が連携を生み、職員個人やチームの成長・進化につながり、それが地域にも伝播していくことで、今後起こりうる「南海トラフ地震」に対する「危機管理意識の強化」にもつながるように思います。

その一方、これまでは原則営利を追求し過ぎない組織として桑名市社協は存在してきましたが、今後起こるであろう未来を見据えてこの施設を作ることに先行投資しましたので、今後はある程度収益性を求めているかなければいけません。これは幹部だけが考えることではなく職員1人1人が経営という意識を持ちながら会社に貢献していく必要がありますし、これまで以上に職員一人ひとりの更なる成長・進化に大いに期待しているところです。

社協としての強みや専門性を活かしつつ、福祉に対する気持ちや初心は決して忘れずに、らいむの丘の存在を活かして、様々なご縁やきっかけを大切にしていこう。時には失敗を恐れず、共に助け合い進んでいく。その中で職員それぞれが学び気づき成長していくことで、職場だけでなく家庭や地域にもその反響が広がる。そんな流れを作っていきたいです。



PICKUP!

福祉を耕す人たち

福祉の現場を「耕す」ことでこのまちがもっとよくなる。

シルバーサポートらいむの丘ハウス

主査 近藤純平さん

2014年入職。最近心掛けていることは「よく食べ、よく寝ること」

■職場の特徴は何ですか？

らいむの丘ハウスは、他の同様の施設と異なり保育園児など様々な方と交流できるのが一番大きいです。施設ができてからこちらに異動してきたため、当初は分からないことも多く苦労しましたが、日々楽しく働いています。

こちらを利用されている方は日常生活が困難な方が多いです。その分、正直課題も多いのですが、難しいことがあればあるほどやりがいがあるし、そこに楽しさも感じています。もちろん、入所されている方とお話したり地域の方とコミュニケーション取るのも楽しいですが、課題があると自分の力が発揮できるのが大きいですね。課題が難しければ難しいほど楽しいです。

■働く上で大事にしていることは何ですか？

色々ありますが、一番はやはり入所者のことですね。ここで生活して良かったと思ってもらえるのが一番なので、そのために色々考え行動しています。

開所当時は新型コロナウイルスの影響で制限もあった



ので難しい部分も

ありましたが、その中でいかに自分に何ができるのかというのを大切にしていました。

コロナだから全部がダメというのではなく、その中でも何かできることをと日々考えていました。

■他に気をつけていることは何ですか？

自分自身の健康面です。他の部署とは違い、ここは泊まりで業務にあたる必要があるためです。社協に入職する前には夜や泊まりの勤務を経験していましたが、社協全体で見ると24時間勤務が必要なのはここだけなんです。もちろん土日や祝日・年末年始も関係ありません。

そうすると、自分自身の健康管理はとても大切になってきます。その部分では「よく食べてよく寝る」ことは心掛けています。1日1日が勝負という環境でもあるので、目の前のことをしっかりこなしていく。それをしっかり積み重ねていくことを意識しています。

ビルメンテナンスから廃棄物処理まで
トータルに幅広く対応いたします。

株式会社 **東海環境サービス**  


<http://www.tokaiks.co.jp>

本社 〒511-0806 桑名市大字東汰上字八反田1009番地 ISO14001
TEL 0594-22-6349 FAX 0594-23-6358 認証取得

RAY STAGE KAWANA
MAKING ONLY ONE STAGE
演劇・ダンス・コンサート・古典芸能
各種イベント及び発表会の
舞台照明・音響・舞台製作を承ります。
Professional Lighting Company
(株)レイ・ステージ桑名
〒511-0943 三重県桑名市森忠1058
TEL 0594-31-5816
FAX 0594-31-4210
E-Mail ray-987@bd5.so-net.ne.jp 

YAMAHA・ROLAND
いつも、そばにピアノがいた!!
昭和楽器
桑名市新西方3丁目199番地
tel 0594-23-2867(代)
fax 0594-23-4811
<http://www.showagakki-mie.com/>



 安全・安心・快適・健康な地域型グリーン住宅
「美し国の家」に所属しています!!
**住まいのお悩み、
何でもご相談ください。**
地元で育ててもらってます
伊藤建築 施工事例はWEBをチェック!
<http://www.hinoki-home.com>
既存住宅状況調査技術者 第02172400032号
一般建設業 三重県知事許可(般29) 第18167号
桑名市江堀5丁目459-2(桑名ハウジングセンター東)
0594-23-3177

令和5年度赤い羽根共同募金運動 結果報告とその使いみち

10/1～12/31 までの間、自治会・企業・学校・団体など多くの皆さまにご協力いただきました。誠にありがとうございました。

赤い羽根共同募金は、昭和22年に市民が主体の民間運動として始まりました。当初は戦後復興の一助として被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後は地域福祉の推進のために今日まで活用されてきました。誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する「じぶんの町を良くするしくみ。」として、全国で取り組まれています。



募金総額及び内訳

戸別募金	17,577,191 円
法人及び大口募金	1,257,285 円
街頭募金	102,659 円
学校募金	143,636 円
職域・その他募金	205,853 円
合計	19,286,624 円

子どもや子育てのために 2,120 千円

- 「大型遊具であそぼ！」の開催
- 「おもちゃ病院くわな」の活動支援
- 市内小中学校が行う福祉教育活動に助成

障がい児・者のために 340 千円

- ほのぼののるーむの開催
- 精神保健福祉活動の普及啓発
- 障害者団体連絡協議会に助成
- 身体障害者福祉協会に助成
- 自閉症児親の会に助成



高齢者のために 1,240 千円

- 宅老所活動に助成
- ひとり暮らし高齢者のつどいの実施
- 配食サービスの実施

ボランティアのために 5,217 千円

- ボランティアグループ活動に助成
- ボランティアの養成、派遣、活動情報の発信
- 災害ボランティアセンターの運営

地域福祉のために 10,134 千円

- 各地区社会福祉協議会活動に助成
- 地域福祉推進団体（民協、保護司会等）に助成
- 「くわな社協だより」の発行
- ホームページの運営
- 桑名市社会福祉大会の開催
- 多度すこやかフェスタの開催
- 長島地区で福祉合同クリスマス会の開催
- 長島地区で地域助け合い推進事業の実施



- 長島地区で福祉座談会を開催
- 多度地区で地域助け合い推進事業の実施

令和5年度（6年度充当）配分額合計 19,051 千円（千円未満切捨）

お知らせ

桑名ボ連協まつり お値打ちな商品が盛りだくさんで、毎年「大にぎわい！」

日時 | 6月15日(土) 10:00～14:00

場所 | 桑名市総合福祉会館 桑名市常盤町51

内容 | バザー、飲食ブース、手作り小物品販売など

▷バザー用品 募集! ~ご協力お願いします~

受付用品 | 食料品、日用品、雑貨、食器、陶器類、装飾品、着物、鞆類、手作り小物 ※未使用のものに限る

受付場所 | 桑名市総合福祉会館 桑名市常盤町51

受付期間 | 6月3日(月)～6月13日(木) 午後5時まで(土・日を除く)

協力方法 | 桑名市総合福祉会館へお持ちいただくか、下記へご連絡ください

問い合わせ | 桑名ボランティア連絡協議会(川瀬 | TEL 090-6570-6580)



大型遊具であそぼ! &おもちゃ病院くわな

月1回、桑名市総合福祉会館大会議室にお子様の遊び場が登場します。

同時開催の「おもちゃ病院くわな」では、おもちゃドクターが壊れたおもちゃの修理を受付しています。

ぜひお気軽に足をお運びください。

日時 | 6/3、7/1、8/5、9/2、10/7、11/11、12/2、1/6、2/3、3/3(予定) 10:30～14:00

対象者 | 未就学児とその保護者

場所 | 桑名市総合福祉会館 桑名市常盤町51

備考 | 柿安シティホール横の立体駐車場をご利用ください(無料処理)

混雑時は利用を制限させていただく場合があります

問い合わせ | 地域福祉課 (TEL22-8218)

シニアカレッジくわな 2024 受講生募集 学びの地域市民大学講座

日時 | 7月5日(金)、7月24日(水)、9月10日(火)、9月25日(水)、10月9日(水)の全5回
全日 13:00(受付)、講義 13:30～16:30 ※講座内容は、社協にて募集チラシをご確認ください。

場所 | 桑名市総合福祉会館 桑名市常盤町51

対象 | 40代以上 定員 | 40～80名

参加費 | 5日間: 3,000円 1講座につき 1,000円(複数日受講可)

参加申込 | 名前・住所・TEL・メールアドレス・年齢を下記までご連絡ください

桑名市老人クラブ連合会(藤田)

電話 | 22-8218 FAX | 23-5079 メール | chiiki@kuwana-shakyo.com

司法書士による成年後見制度相談会

お一人(組)1時間以内・各日3人(組)までとなります。

日時 | 毎月第1水曜日 9:00～12:00 ※変更する場合あり

場所 | 桑名市総合福祉会館 桑名市常盤町51

備考 | 予約優先(予約がない場合は当日飛び込み参加OK)

予約先 | 地域福祉課 (TEL23-2856)

吉田福祉基金様よりご寄付をいただきました

一般財団法人吉田福祉基金様より、令和5年度寄贈事業として「次世代型標準車椅子」を寄贈いただきました。多度すこやかセンターで大切に使用させていただきます。

